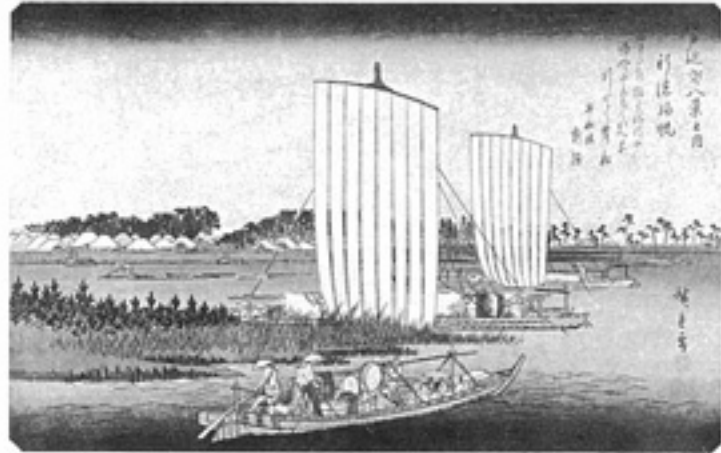


ありし日の塩浜を偲んで 行徳のみちをあるく



江戸時代から明治の始め頃までは、この絵に見るような大きな帆を張った船や「行徳舟」と呼ばれた定期船の航行で江戸川（現在の旧江戸川）は賑わいました。
 (安藤広重・行徳帰帆・天保9年)



明治10年、国内通運会社が利根川筋に就航させた、蒸気船「通運丸」



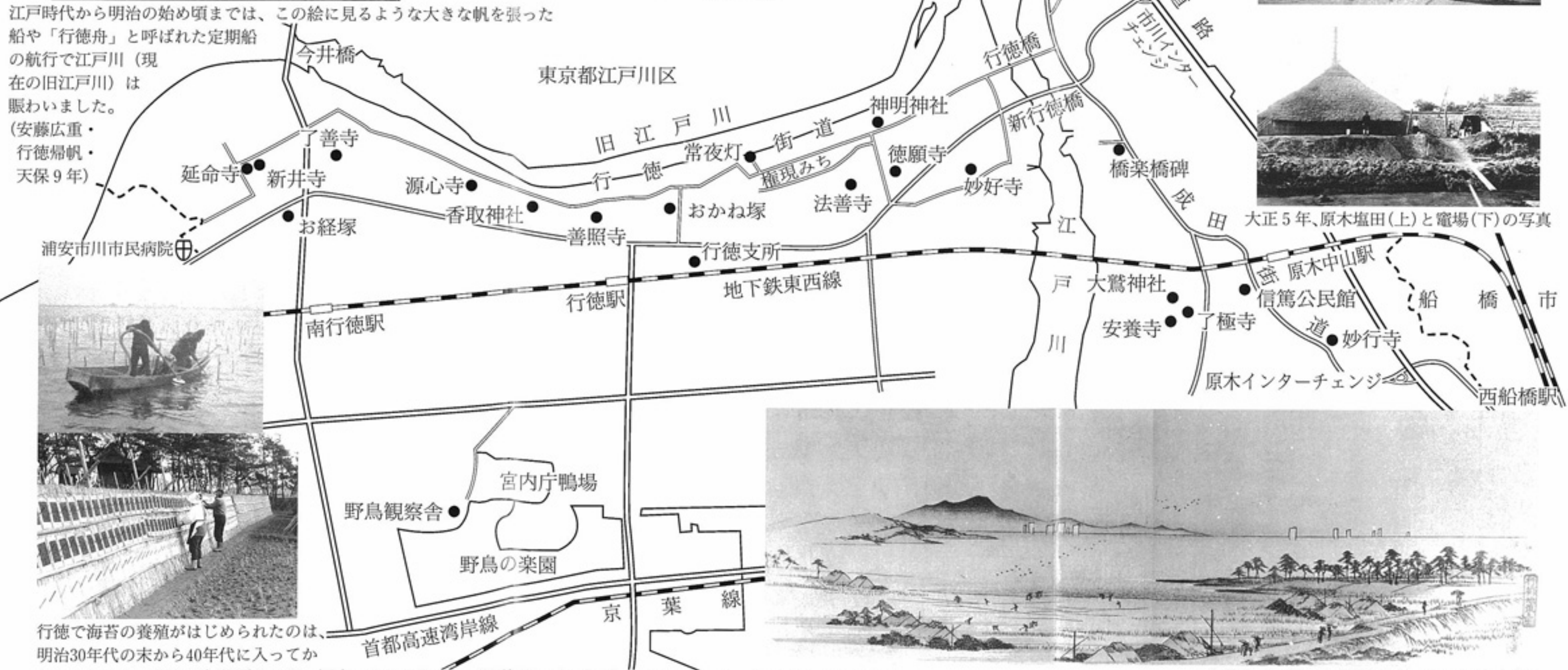
行徳新河岸に停泊する「通運丸」
 (成田土産名所尽・3代広重・明治23年)



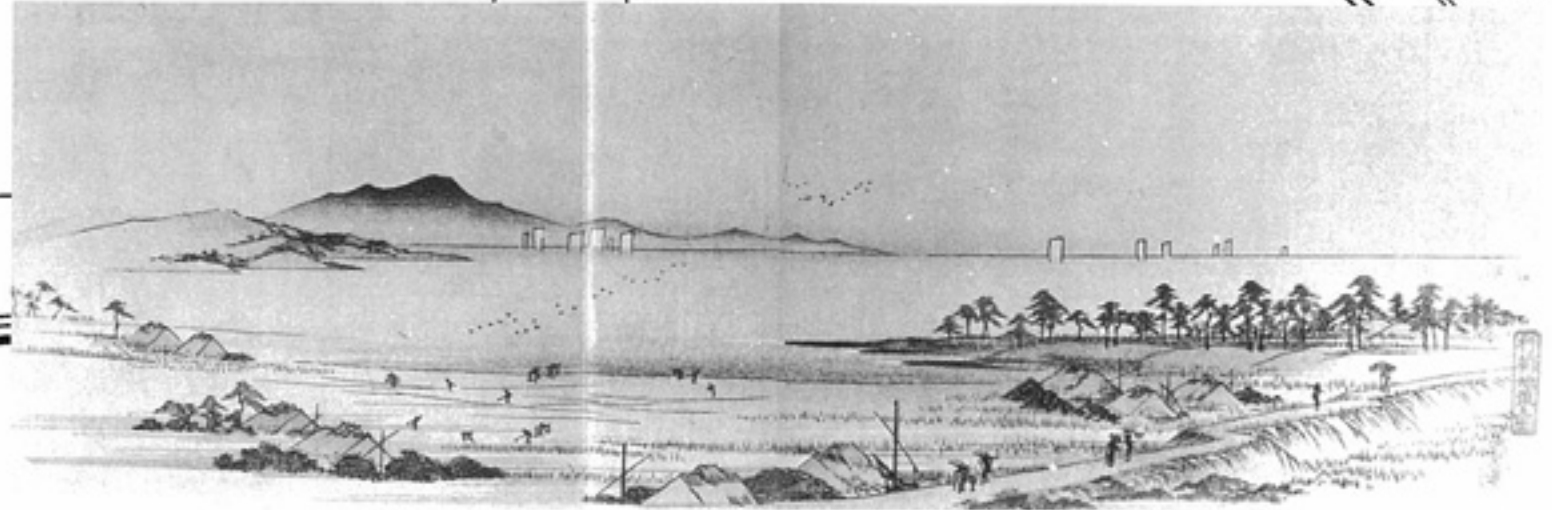
渡辺華山のスケッチした行徳新河岸の常夜灯(四州真景図巻)



大正5年、原木塩田(上)と竈場(下)の写真



行徳で海苔の養殖がはじめられたのは、明治30年代の末から40年代に入ってからのことです。昭和30年代頃までは、写真のような海苔の天然乾燥風景が各所で見られました。上は海苔の採取作業



安藤広重の描いた「行徳塩浜之図」(天保末年)